

# 薬を認め訴え 未承認腫瘍 保険適用

## 鹿児島市で支援セミナー



脳腫瘍患者と家族の支援セミナーが鹿児島市で開かれ、鹿児島大学の医師らが病気のメカニズムや治療法、支援体制について講演した。写真。効果の高い薬の保険適用を、関係者が声を合わせ国へ働きかける大切さも指摘した。

同大学脳神経外科の平野宏文講師は「グリオーマと治療」と題して講演。「原発性脳腫瘍のうち、髄膜腫に次いで多いグリオーマは命を脅かす病気。腫瘍細胞が脳内を泳ぐように周囲に広がる。中でも最も悪性度が高いグレード4の膠芽腫は細胞分裂も多く、すぐ大きくなりやすい」と話した。

患者の人生の質を維持・向上

させるため、手術や放射線、化学療法といった治療法をつまぐ組み合わせる大切さを強調した。

平野講師は「より効果が高く、医師も患者も保険適用してほしいと願っているにもかかわらず、認可されていない薬がある」とも指摘。より良い治療に向け、患者の家族らが国に呼び掛ける重要性にふれた。

例えば、膠芽腫にも効果があることが専門医の間で知られる血管新生因子に対する抗体薬は、他のがんでは保険適応になっているが、膠芽腫には認められていない。患者は限られた時間の中、シリシリしながら保険適応を待っているという。

セミナーは、NPO法人脳腫瘍ネットワーク(横浜市)が8月下旬、県内で初開催した。